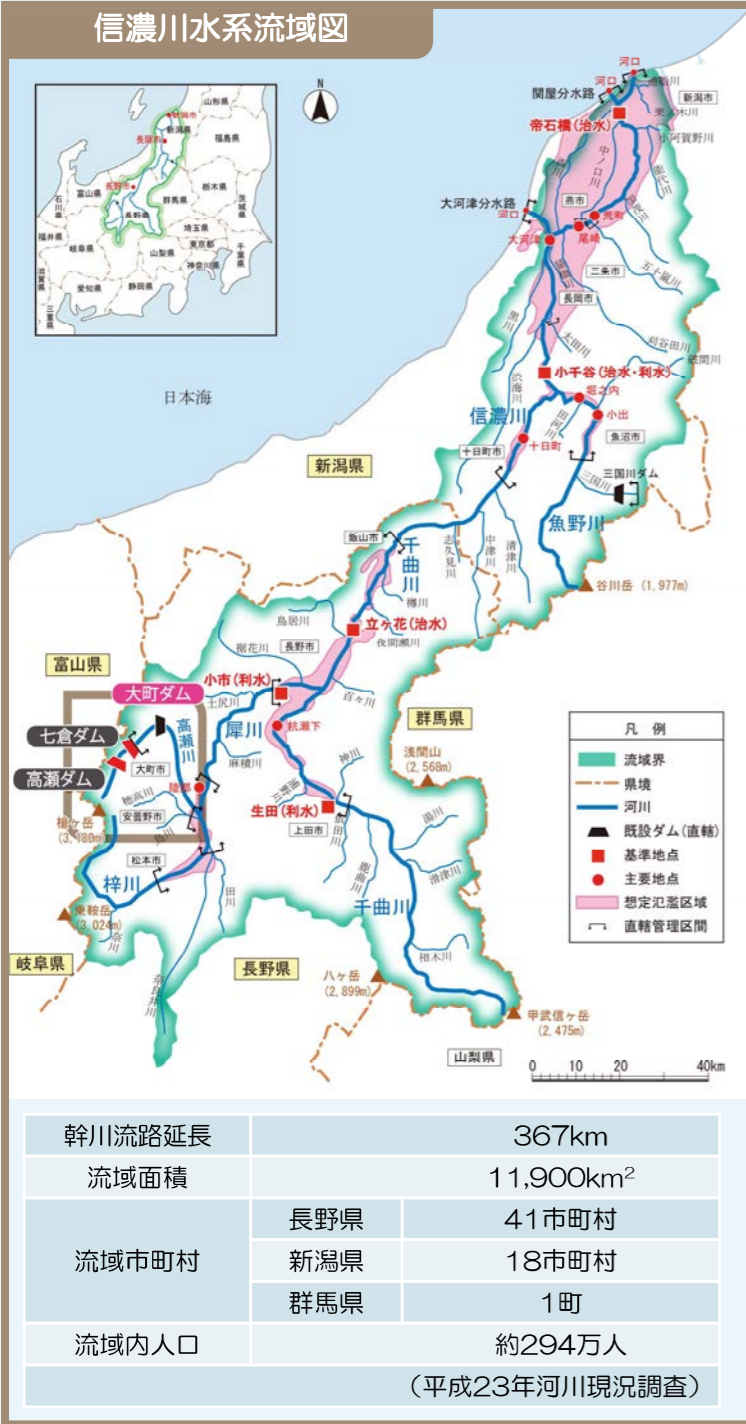


信濃川流域の概要

信濃川は、その源を長野、山梨、埼玉県境の甲武信ヶ岳（標高 2,475m）に発し、長野県では千曲川と呼称される、日本海に注ぐ、日本一の幹川流路延長 367km、流域面積 11,900km² の一級河川です。

信濃川水系の流域は、長野県の県都長野市や本州日本海側初の政令指定都市である新潟市等を抱え、これらの地域を含めた沿川において社会・経済・文化の基盤が形成されています。

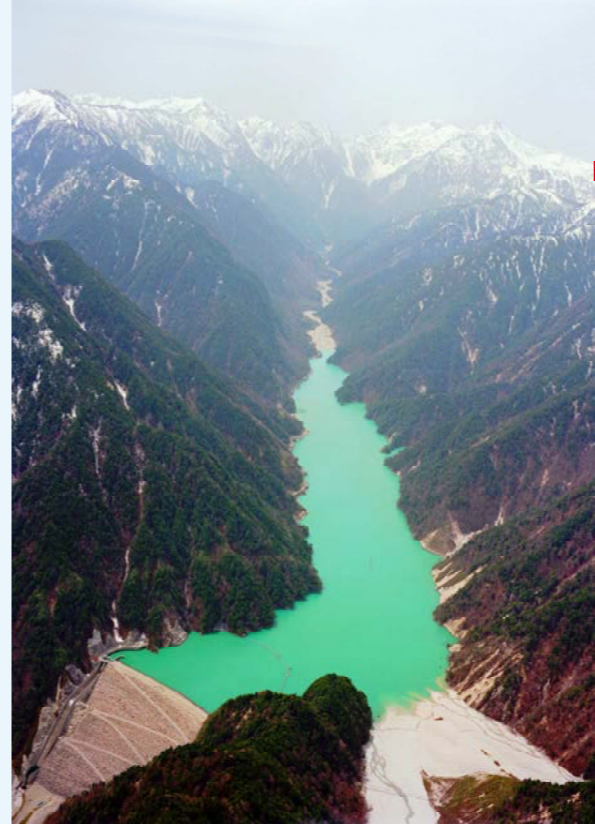
こぶしがたけ



高瀬川流域の概要

高瀬川は信濃川上流部に位置し、日本アルプスの槍ヶ岳（標高 3,180m）を源とし、犀川に合流するまでの流域面積約 445km²、流路延長 56km の支川です。

流域は内陸性気候のため寒暖の差が顕著で年間を通じて比較的低温の気温です。大町ダム上流域の年間降水量は 2,478mm (S61年～H26年平均) で、梅雨期と台風期に降水が多い特徴があります。

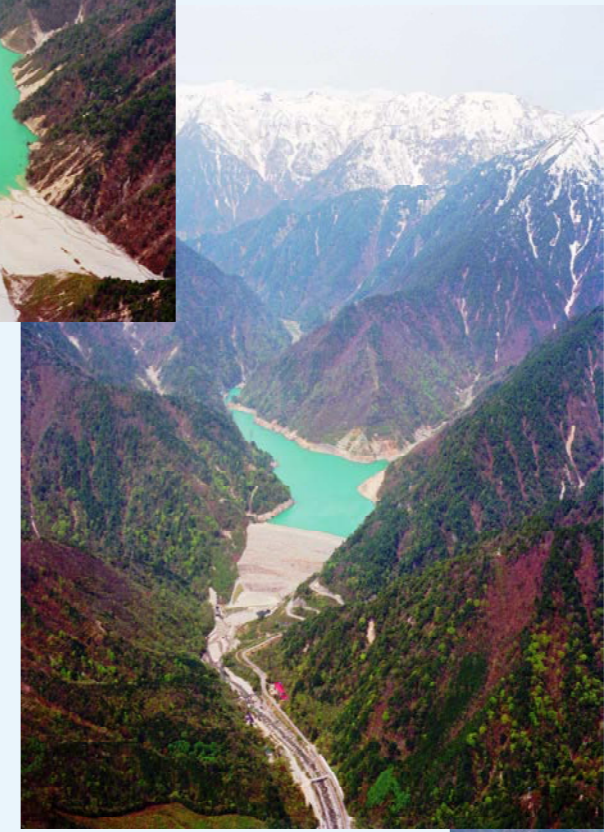


高瀬ダム

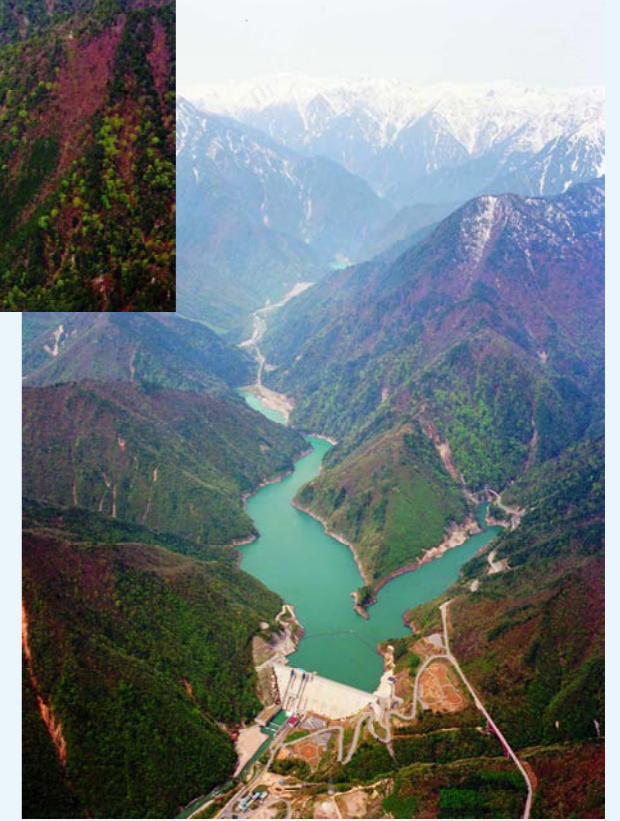
河川総合開発事業

大町ダム等再編事業

(実施計画調査)



七倉ダム



大町ダム

国土交通省 北陸地方整備局
千曲川河川事務所

お問い合わせ先

国土交通省 北陸地方整備局 千曲川河川事務所
〒380-0903 長野県長野市鶴賀字峰村 74

TEL 026-227-7611
FAX 026-227-9466

高瀬川の既設ダムの概要

大町ダム (国土交通省)		七倉ダム (東京電力)		高瀬ダム (東京電力)	
完成年度	昭和60年度	完成年度	昭和54年度	完成年度	昭和54年度
目的	洪水調節 農業用水等の安定供給 水道水の確保 発電	目的	発電	目的	発電
型式	重力式コンクリートダム	型式	ロックフィルダム	型式	ロックフィルダム
堤高	107m	堤高	125m	堤高	176m
堤頂長	338m	堤頂長	340m	堤頂長	362m
堤体積	765千m ³	堤体積	7,380千m ³	堤体積	11,590千m ³
集水面積	193km ²	集水面積	150km ²	集水面積	131km ²

大町ダム (国土交通省)		七倉ダム (東京電力)		高瀬ダム (東京電力)	
▽ダム天端 EL. 906.0m	▽洪水時最高水位 EL. 904.0m	▽ダム天端 EL. 1054.0m	▽平常時最高貯水位 EL. 1049.0m	▽ダム天端 EL. 1283.0m	▽平常時最高貯水位 EL. 1278.0m
洪水調節容量 2,000万m ³	▽洪水貯留準備水位 EL. 879.6m (洪水期) 利水容量 890万m ³ 不特定 660万m ³ 水道 180万m ³ 発電 50万m ³	発電容量 1,620万m ³	▽最低水位 EL. 1020.0m	発電容量 1,620万m ³	▽最低水位 EL. 1268.0m
計画堆砂容量 500万m ³	▽基礎地盤 EL. 799.0m	死水容量 1,630万m ³	▽基礎地盤 EL. 929.0m	死水容量 6,000万m ³	▽基礎地盤 EL. 1107.0m
貯水池容量配分図 (洪水期)		貯水池容量配分図		貯水池容量配分図	

平成18年7月洪水における連携操作と効果

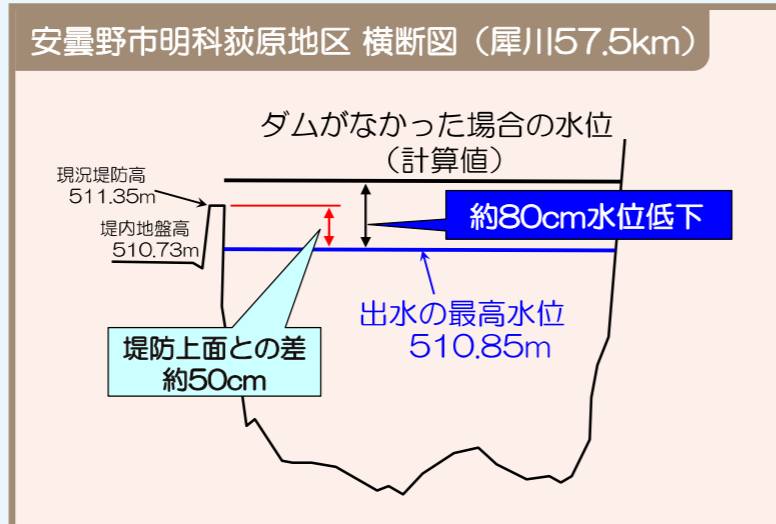
平成18年7月の洪水では、犀川の「陸郷水位観測所」の水位が避難判断水位を超え、さらに水位が上昇するおそれがありました。このため大町ダム (国土交通省) および高瀬ダム・七倉ダムなど5つの発電ダム (東京電力株) が連携して特例的に洪水を貯め込み、下流部の水位上昇を抑えました。



平成18年7月洪水時に大町ダムにおいて特例的に50 m³/sのみの放流を25時間続け、洪水をカットしている状況



安曇野市明科萩原地区は、堤防天端まで、あと50cmまで水位が迫りました。



大町ダム等再編事業

高瀬川の既設ダムの有効活用

平成18年7月洪水を契機とし、高瀬川の既設ダムを活用した治水対策に関して検討を進めてきました。平成26年1月に策定された信濃川水系河川整備計画では、「大町ダム等の既設ダムを有効活用し、新たに洪水調節機能を確保することについて、調査・検討の上、必要な対策を実施する」ことが位置づけられました。

今後、事業実施に向けた詳細な調査・検討、関係者間の調整をさらに進めるため、平成27年度より実施計画調査に着手します。

大町ダム等再編事業の概要 (現在検討中の対策)

現在、検討を進めている高瀬川の既設ダムを活用した治水対策は、高瀬ダム、七倉ダムにおける発電容量の一部、大町ダムの水道容量の一部を活用し、新たに洪水調節容量を確保するものです。これにより、高瀬川や犀川沿川はもとより、千曲川本川にも十分に洪水調節効果が発揮できるよう、既設3ダムで洪水を貯め込み、下流の流量をさらに低減させるものです。

また、高瀬ダム、七倉ダムへの治水機能の追加に併せて、長期的に、また安定的に治水機能や利水機能が確保されるよう、発電事業者と共同でダムの流入土砂対策を行うことも検討しています。

事業のイメージ図

